

いふ人今あらん打拂えんとすれは内女帝皇に入しての奪
それ後代の恥辱なり先皇も向ふの幸追登るべしあらう
は道一筋を追来るも生時近くと引うけ合はくぬるべし
と急ぎて岸に登りたる皇女細道一筋に敵一軍にあり
て追かき去る番長刀を打振り追来る敵を打拂ひ一掃
もかく谷底まで下り落され敵にありて逃げきりての者
は勝にありて逃げきり去る番下知して野武士は先を奪
に及ぶも長追ひきりてそ人数をまより程なく山形へ
送りしけいなり

十五里原合戦之事

一 相城中より東漸寺左馬廐草四虎助に中より大
軍を引け城を守りて戦はん事かゝりて所詮途中
出合を防戦せんとなりて中より打出強ひとありて二
手に備え立午安川を前に當り大山川千安川の段に
接し城より去り離れて陣を取る平京甲京田を
後に當り尾浦の城を眼に見おしける雑率にむる也
是年最上の者ありて死を喫ふ少くも屈する者なくとも
進んて扣く者ありて戦後の軍勢二万余人中左重
長同勝頼大將として雲霧のこころ攻め来る玉人も幾